

●双子会とは？

時代の移り変わりとともに、地域には農家だけで無く会社勤めをする家庭も増えてきて、隣近所の付き合いやつながりが薄くなってきました。このままではいかんと集まった15人で会を作ることになり、昭和47年、地区から愛され幼いころに遊んだ二子山にちなんで(字は違いますが)「双子会」を発足したんです。

会では、地区の祭りの企画など、さまざまな地域づくり活動に取り組んでいて、二子山の刈り払いもその活動の一つなんです。

●毎年、二子山登山道の刈り

払いをしているんですか？

私たちの地区の山なんだから大事にしよう、子どものころのようになきれいな山にしようとの思いから、毎年7月の第3日曜日に作業を行っています。会が発足したときからなので、もう40年近くになりますかね。

山頂の木をきれいに刈り取ることで出来たら、景色は最高なんですけどね。

●市の「地域応援プラン」に

応募したそうですが？

私たちは、昔のように二子山を子どもたちが遠足で登ったり遊んだりして集まる場所にしたいと思っています。でも、最初は15人いた会員も、今は7人だけになり、草を刈るにも精一杯なんですよ。崩れて狭くなった登山道を広げ

市で補助金を交付する「地域応援プラン」を活用して 二子山の再生を実現させたい



ようと、私もトガ(くわを小型にした農具)を使って掘ってみたんですが、1日掛かりでも大して進めなかつたんです。これでは、整備や雑木を撤去するために思っていた以上に費用と人手が掛かるなど。そこで、何とかならないかと話し合いをしていたところ、市で地域づくりの活動に補助金を交付するとの話を聞いて、まず応募してみるかとなったんです。

●応募した実施内容は？

まず測量をします。その後に、きれいな登山道にするための雑木の撤去や、急斜面に雑木などを利用した階段を作るなどして、昔の二子山を再生したいというものです。幸い地権者からも協力を得て、登山道入り口を登りやすい場所に付け替えることが出来たので、看

双子会会長 佐藤 友司^{ともじ}さん(出口1)

7月18日に行われた刈り払い



板も立てるつもりなんです。

●結果はどうでした？

残念ながら採択されませんでした。自分たちで掛かる費用を算出して申請したため、内容が不明確だったようです。来年は指摘されたことを見直して、どれだけ掛かるのかしっかりと積算してから、再度応募したいと思っています。

●最後に佐藤会長の思いを：

昔、この辺りの子どもたちは、誰もが二子山に登って遊んだものです。今の子どもたちにも、そんな楽しい思い出を作ってもらいたい、学校の遠足や地域のかたの憩いの場として「二子山」の再生を実現させたいですね。



子どもたちの笑い声を再び

武藤 定昭^{ただあき}さん(出口2)

子どもたちの遠足と言えば二子山で、とても楽しみにして学校を出発したもんです。山頂まで登ったかは定かではありませんが、地域のかたも整備してくれてたのか、とてもきれいな山(斜面)だったように記憶しています。

当時は、周りに遊び場も無かったですから、遠足以外でも良く行きましたよ。折れた木を刀代わりにして、友達たちとチャンバラごっこや兵隊ごっこをして夢中になって遊んでました。

今、登山道を整備する話が進んでいます。みんなが集まって交流する場になれば、地域の活性化の足掛かりになると思うんです。昔のように子どもたちが遊び、笑い声が聞こえるようになるんだから、私も全面的に協力したいですね。